

## ワクチンを利用して予防しよう!! —アカバネ病について—

アカバネ病は、平成9年度に全国的な大流行が確認されて以来、岐阜県へのウイルス侵入はなく、本年度、実施した調査でもアカバネ病ウイルスの動きは確認されませんでした。

飛騨地域では、毎年春に異常産に關与するウイルス（アカバネ病ウイルス、アイノウイルス、チュウザンウイルス）の3種混合ワクチンを接種しています。今後も継続的にワクチンを接種し、生まれてくる子牛を守りましょう!!

### <アカバネ病とは>

- ・ウイルスの流行時期は夏～秋で、主な媒介昆虫であるヌカカの発生時期と一致
- ・異常産の発生時期は夏～翌年春
- ・流行の北限は北海道道南といわれているが、地球温暖化により分布が拡大傾向
- ・妊娠牛が感染すると約30%の発病率で、異常産を起こす
- ・家畜伝染病予防法で届出伝染病に規定

### <症状>

- ・成牛：ほとんど症状はみられないが、体型異常産子による難産
- ・子牛（生後感染）：運動失調、起立困難～不能、後肢麻痺、異常興奮等の神経症状
- ・妊娠牛：流産、死産、早産および先天性の奇形を伴った異常子牛の分娩

### <異常子牛の症状>

- ・四肢の湾曲や脊柱湾曲あるいは斜頸などの体型異常
- ・頭部の変形
- ・起立不能
- ・自力哺乳の弱い虚弱



左・コガタアカイエカ、  
右・ウシヌカカ

(原図：動物衛生研究所・梁瀬 徹氏)



アカバネ病野外発生例。  
四肢屈曲および頸部側方湾曲、  
起立不能子牛

(元日大 稲葉右二先生 提供)

### <予防>

アカバネ病の予防は媒介昆虫が活動し始める前のワクチン接種です。飛騨地域では、毎年春に異常産3種混合ワクチンを接種しています。今後も継続的に接種するように心掛けてください。



飛騨家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111 FAX 32-9019 E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp

ご不明な点は、市町村担当者、獣医師もしくは家畜保健衛生所までご相談ください。

## ＜参考＞

### ＜アイノウイルス感染症とは＞

- ・ ウイルスの流行時期は夏～秋で主な媒介昆虫であるヌカカの発生時期と一致
- ・ 異常産の発生時期は夏～翌年春
- ・ 流行の北限は近畿地方
- ・ 妊娠牛が感染すると5%未満の発症率で、異常産を起こす
- ・ 家畜伝染病予防法で届出伝染病に規定

### ＜症状＞

成牛：ほとんど無症状、体型異常産子による難産

妊娠牛：流産、死産、早産および先天性の奇形を伴った異常子牛の分娩

### ＜異常子牛の症状＞

起立不能、自力哺乳の弱い虚弱、四肢の湾曲、特に脊柱湾曲あるいは斜頸を多く示し、症状からアカバネ病と区別するのは難しい



頸椎湾曲による頭部のねじれ、  
前肢湾曲、後肢伸張

(福岡県中央家保 提供)

### ＜チュウザン病とは＞

- ・ ウイルスの流行時期は夏～秋で主な媒介昆虫であるヌカカの発生時期と一致
- ・ 異常産の発生時期は秋～翌年春
- ・ これまでの発生は九州地方のみ
- ・ 家畜伝染病予防法で届出伝染病に規定

### ＜症状＞

- ・ 肉用牛（主に黒毛和種）で多発する
- ・ 成牛：ほとんど無症状
- ・ 妊娠牛：虚弱または神経症状を伴った異常子牛の分娩。流産、死産および早産は少なく、異常子牛の体型異常は見られない

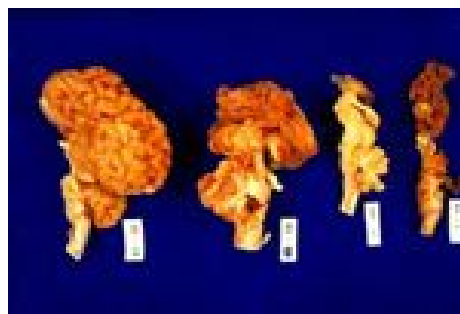
### ＜異常子牛の症状＞

起立不能、自力哺乳不能、神経症状（間欠的なてんかん様発作、四肢の屈折や回転、後弓反張、呆然佇立や旋回運動など）を示す



野外例：後弓反張を示した子牛

(原図：元動物衛生研究所、後藤義之氏)



脳の異常形成：正常に近いもの（左）  
全大脳、小脳の欠損（右）

(原図：元動物衛生研究所、後藤義之氏)